



Alcoholics Anonymous

こちらAA

専門家向けニューズレター

〒100-8692 東京都中央郵便局 私書箱916

1999年
No. 2
AA日本常任理事会
広報委員会

発行所 JSO AA日本ゼネラルサービスオフィス 〒171-0014東京都豊島区池袋4-17-10土屋ビル4F
TEL(03)3590-5377 FAX(03)3590-5419

飲酒に問題がある犯罪者の更生援助を

更生保護施設にあける取り組みについて -

荒木 龍彦 法務省保護局

JSOが、罪を犯した人々に、AAメンバーのメッセージを刑務所などに運ぶ組織的な活動をはじめ2年余りが経過した。すでに、施設によっては矯正教育のプログラムの中で定着しつつある取り組みもあるとのことである。私が所属する法務省保護局の所管にかかる更生保護施設(注)という施設でも、やはりAAや断酒会のメンバーの協力を得たプログラムを行っているところがある。全体からみれば、まだまだ端緒の段階かもしれない。それでも、飲酒に問題のある犯罪者に対し、司法上の措置から回復のためのサポートへと移行するために、刑事司法の機関がAA等の自助グループとの連絡をもつことは、きわめて重要な意味をもっている。

私はかつて地方更生保護委員会という機関の保護観察官の立場でいくつかの刑務所を担当し、収容者の仮釈放のための面接調査に当たったことがあった。そのときに受けた印象としても、受刑者の中には飲酒が事件につながって収容された人たちがいかにも多い。その中にはたまたま一時の酒の勢いで罪を犯すにいたった例も数多いが、酪耐すると窃盗など特定の犯罪を犯しやすくなってしまいう人もいる。むろん社会全体の中のアルコール依存の問題がある人々の中では、そのような人というのはごく一部である。ただ、いったんそのような飲酒と犯罪との結び付きが出来上がったかのような人にとっては、自力での更正はかなりむずかしいといわなければならない。刑務所での面接の場面で、彼らは、酒に酔っていたばかりに必要なものを盗んでしまったなどと無念そうに話す。そして出所後の断酒を誓う。AAや断酒会などの自助グループの存在を知らせると、ぜひ参加したいとも言うのである。しかし現実に仮釈放されてみると、AAや断酒会に行かないし、行っても続かず、結局・飲酒、犯罪、服役の同じ繰返しとなる。要は、自分自身でその飲酒の問題を正しく認識し、また対処していくことができず、結果的に刑務所の入出所を繰り返すことになっている。社会の側からの強力なアシストが必要な人たちである。更生保護施設で行われる断酒や酒割についての教育プログラムは、刑務所で行われるように、飲酒できない状況を確認してじっくりと教育を行うということがなかなかむずかしい。それは、在寮期間がほとんどの場合1年未満と短く、また、寮生たちが、早い時期から様々な勤務条件のもとで就労するようになること、さらには職場等で飲酒の機会が多いことなどのためである。しかし、酒の誘惑や仕事上のストレスにまさに当面する中で自らの飲酒の問題を見つめ、適切に対処するように援助を行うという点では、更生保護施設に在寮する間に実施する意義も大きい。東京都内のある更生保護施設では、刑務所出所前の面接や、各種グループワークの実施、医療、福祉に関する個

別の指導・援助等をきめ細かく行い、成果を上げたことがあった。医療・福祉機関の親身のバックアップも一定の結果を得るためのたいへん大きな要素であった。結果的に、飲酒の問題に適切な対処を行えば、受刑歴の多い人であっても、服役を繰り返す悪循環を断ち切ることができることを示す事例をいくつも得ることができた。日本は、先進国の中で矯正施設にAAのメッセージが運ばれていない最後の国だとAAの方に聞いたことがあった。しかし、事実はその逆ではなく、以前にもAAが刑務所や更生保護施設にメッセージを運んだことは、何度となくあった。ただ、せっかく行われても双方の何らかの事情により行われなくなってしまっていたのが実情である。続かない原因はいろいろあるだろうが、熱心な個人の努力に依存する部分が大きかったこともその一つであったろうと思われる。その意味で、今回、一会員、又は一地域の取り組みとしてではなく、JSOが組織的な活動として取り組み始めたことは、画期的なことであるといえる。他の更生保護施設では、AAメンバーと寮生との意識の隔たりが埋められず、1年余りで施設にメッセージを運ぶ活動が途絶えてしまったこともあった。この例のように、まだしばらくの間は、相互の理解不足から連携のちぐはぐな時期が続くことであろう。ただ、それをこれまでと同様の試行錯誤の繰り返しにしないためにも、AAの方々や医療、福祉関係諸機関の方々とのコミュニケーションの回路を絶やさずにおくことは大切であると考えている。欧米の団体や民間施設を見ると、薬物、アルコールの影響下に犯罪を反復して社会に脅威を与えてきた人々が、その団体のプログラムを通じてむしろ同様の人々を回復の方向に導く積極的な役割を果たすようになっている。適切な援助システムを用意すれば、将来、それは日本においても可能であると思っている。



注) 更生保護施設は、刑務所を出所後、帰る先のない人たちに宿舎を提供し、就労を助けるなどして円滑な社会復帰を支援する施設で、全国に100施設ほどある。かつては「更生保護会」といったが、平成7年に更生保護事業法が施行されてから「更生保護法人」という民間団体が運営する「更生保護施設」と呼称されるようになった。なお、生活保護法に基づく「更生施設」とは全く別の施設である。

1998年12月15日・発売

ザ・ベスト・オブ・ビル

ビル・W著

信じる心 怖れ 正直さ
謙虚さ 愛

JSO内
AA日本出版局

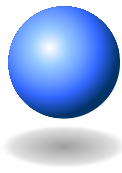
頒布価格 四〇〇円

B6 48ページ 日本語翻訳版 表紙・葡萄色

第3回アジアオセアニアサービス
ミーティング

私達の第一の目的」
3月29日(月)~30日(火)
シドニークアラソテイツホテル

東欧でAAが定着した今、世界のAAの目はアジアに注がれています。まだ苦しんでいるアルコール依存症の手助けをするというAAの第一の目的を果たすチャンスがこれはど多く残された地帯はほかにありません。数多くの宗教、数多くの言語、数多くの人種が混在し、経済的にも混乱の状況にあるアジア諸国に向け、AAの第一の目的を果たす方法を話し合い、経験を分かち合うアジアオセアニアサービスミーティングには、わが国のほかに、韓国、香港、台湾、タイ、グアム、ニュージーランド、オーストラリアが参加申し込みを済ませています。アメリカもアドバイザーとして参加します。



自助グループとグループワーク

斉藤 昭夫

私自身は長年、福祉事務所のケースワーカーとして、あるいはグループワーカーとして仕事をしてきました。私がグループワークを始めたいきっかけは、A, Aの影響と東京都中部総合精神健セッターの研修での斎藤先生の示唆によるものでした。

その後の経験をともに自助グループとグループワークについて、お話ししたいと思います。

1 自助グループ

自助グループとは一言で言えば、患者会です。方法としては、一緒に手を携えて、支え合い病氣と立ち向かったり、受け入れたりする所です。その自標は回復又は、より良い生き方を目指すところです。

自助グループの活動には、「自由、平等、博愛」が貫かれる必要があると、私は思います。

そこには、発言の自由が保障され、参加者はプラスの事もマイナスの事も、何でも自由に発言することが出来ます。なにを話しても決して非難されないと安心感が、自由に自分を開花して真実と本心を話す事が出来ます。こうして自分自身のことを話す経験を積み重ねるうちに、先行く仲間に影響され、次第に自分自身のことを振り返ることができてきます。これを長年繰り返し、繰り返し、行うと人間が変わって来ます。かつては、自己愛が強く、他人に批判的、他罰的であつた人でも、自分自身の問題を反省して、他人を変えようともがくより、自分自身を変えることの方が、精神的な落ち書きを得られると気づきます。ここまでくると、回復に向かっていると云えるでしょう。何年間断酒し、自助グループに参加していると書いても、他人を批判、非難している内は、「まだあいつは、回復していない。」と負の(マイナスの)評価を受けてしまいます。物事を前向きに、見る力がつかどうか、回復のポイントと言えます。

では、一体どういう人が回復するのと言いますと、謙虚になれて、他人の話、時には自分にとって耳が痛い話をも、受け入れることができるかどうか、自分を変える力を得る鍵であるように思います。

ところで、話し手の発言にはなにが飛び出すか分からないと言う、スリルもあります。それに巻き込まれないよう、聞き手の方は、プラスの事を持ち帰り、マイナスの事を聞き流し、置捨てて帰る自由がありますが、これも一定の能力と鍛錬を必要とします。見分ける能力と言えます。

他方、話しての方も、特に先行く人の場合には、まだ無防備なビギナーにショックを与えたり、スリップするきっかけとなるような言動を慎むジェントリー(優しさ)が必要です。その優しさが博愛です。先行く人は、それだけ

成長していなければいけない、先行く人の言動にはそれだけの責任がある訳です。

また、博愛の精神という点では、多少の失敗を許す寛容さも求められます。この博愛の精神はケースワーカー等のプロフェッショナル、専門家にも共通して求められる資質です。最近の福祉事務所にはこれがかけてるように思いますけど。

そして、平等とは、支配しない、指導的な立場に立たないと言うことです。専門家には、直接に指導、指示、教育する権限と機会が与えられていますが、自助グループでは、話し手が自分の体験談、失敗談を聞かせ、間接的に、聞き手に本人の気づきを誘い出すことは許されます。

しかし、これがいいんですね。仮に、他人から強制された結論なら、本人にとってはなかなか受け入れ難いものですし、不納得な方向に向かって、人間は決して快く積極的に前進することはできません。ところが、体験談でやんわりと非を示唆されると、プライドは傷つきませんし、受け入れ易いものです。自分の力で気づき、納得した結論であれば、本心から歩むことができます。この法則、手法は、専門家の立場でも時により、相手の状態によっては、有効な方法として、取り入れることができます。

ロバに水を飲ませる譬え話

自助グループでは、ロバに水を飲ませる場合、無理にすすめない。自分も過去にこんなことがあったよと失敗談を聞かせたり、こうすればうまく行くと言う話を聞かせるのです。他のロバがおいしそうに水を飲めば、本人のロバもつられて、水を飲みたくなるでしょう。

いくら専門家が同じことを言っても、受け手の側が、素直には聞かない場合が多いでしょう。同じ病氣、同じ体験をした者同士の受け入れ易さと言う独特な関係性の効用があります。

2 専門家の役割

専門家の行うグループワークは、自助グループの手法を採り入れて行っていることもあります。保健所、中間施設、医療機関、共同作業所は勿論ですが、時にはまれに福祉事務所でもグループワークとして、ミーティングを行っています。

この専門家の行うグループワークには、制限付きの自由、制限付きの平等があります。博愛精神については、専門家と言えども、自助グループと同じく、寛容なる博愛精神が貫かれるべきだと、私は思います。ちょっとくらいクーラーを持っていても、貯金をしていても、片日をつぶつたり、両目をつぶるくらいの寛容さが、福祉事務所には、欲しい

ものです。

私の経験では、夫を亡くした方で、形見の宝石の指輪を3個持っている方を担当しまして、ケース記録に記録せず、本人には、やたらと人前に見せないように、注意していたのですが、そのご婦人がよその区に転居され、先方の区で、指輪の所有が問題にされて、私も「ばらまき福祉の斎藤」とお褒めの言葉を頂き、所長からは、「君は記録に書かなかった」と批判され特別昇給で差別されたことがあります。

そりゃそうですよ。形式的な役所の常識では、福祉を受けてる人が宝石を持っているなんて、公務員としては、書く訳にはいきません。でも夫を亡くした方にとっては、忘れ形見として大切に所有し、今は亡き夫の愛を確かめつつ生きていく勇気と精神的なよりどころにこの「石ころ」がなっているなら、大きな価値があるのではありませんか。これは本人のみにとっての価値です。処分させ他の人の手に渡ってもこのような大きな価値はありません。また、何でも鑑定団に出せば分かることでしょうけど、宝石なんて使っている内に細かい傷が付いて、大して処分価値にはならないそうです。数百万以上なら別ですけど、...

つまりケースワーカーは、近視眼的な物の見方をしてはいけない、長期的な視点に立てば、福祉を受けている方が病氣や精神的なダメージや社会的なハンディを克服し、やがては自立なり生活改善に向かっていく、と言うことを、そして福祉事務所のケースワーカーはその援助活動することに仕事の面白みがあるのです。アル - ル依存症の本人を毛嫌いするケースワーカーもいますガ、でも本人を援助すれば、周囲の家族や親族等にとっての助けとなり、家族などが安心して生活し、社会復帰できると言う社会的な効果を産みます。フル - ルを止めれば、本人もやがては働いたり、あるいは入院費用が掛からなくなって、税金が無駄に浪費されない訳です。グローバルな視点に立って福祉事務所は考えてもらいたいものです。さて、話を戻しますが、専門家のグループワークには、制限付きの自由、制限付きの平等があるという話でしたが、グループワークの中では、また飲みたいとか、やたらと他人に責任を転嫁するような発言があった場合、私にはそれは思えないとか、さあどうでしょうかねとか、他の人ならどう思うでしょうか、話の流れを切り替えることができます。グループ構成員に与える影響、このグループに参加した後の構成員のその後の精神活動への影響を考慮し、不穏当な、不適切な発言を見逃さないことガ、グループワーカーに許される権利であり、プロフェッショナルとしての義務です。この権利を行使しない場合、グループワークは崩壊してしまいます。わざわざ専門家ガグループワークとして行う意味はなくなります。

自助グループは同志的な連合と愛に包まれており、グループワークは必要に応じて教育的な関係性を行使するが、やはり愛に包まれるべきだと思います。ところで、ケースワーカーの自助グループで、フル - ル公扶研と言うグループを毎月第2水曜日、高田馬場の新宿区福祉公社の地下会議室でミーティングを開催しています。どうぞご参加ください。今回お伝えすることは以上で終わります。

お読み頂いてありがとうございました。

AAメンバーシップ調査パンフレットを御利用ください

B6版10ページ 表紙・若苗色



お越しました

旧オフィスより少しだけ歩く時間が長くなりました。色々な道で来る事が出来ます。もちろんバスに乗って来るのもいいのですが、交通事情はあまり良いとは言えません。ご利用の際はくれぐれもお腹立ちにならないように。新しいオフィスはスペースのある、明るいとこです。以前の約4倍の広さとなり、AAの出版物の全て(在庫も含めて)を書棚に収納してあります。まだ十分に整理が出来てはいないのですが、日本のAAの歩みが揃っています。アルコリズムに関する文献、書籍、VTRテープなども充分とは言えないのですが、ご利用をお待ちしています。そして、日本全国の情報や世界各国の情報が集まっています。メンバーの一人一人の献金によってJSOは、AAの唯一の目的に向けた活動を一歩ずつ続けています。AAを知らずに今も苦しんでいる人達、そして将来にAAを知ろう人達に私たちのメッセージが届けるために、是非一度お越しください。お待ち申し上げます。



一九九七年に実施された、AAメンバーシップアンケートの集計を、いくつかの項目に絞り込んで、リーフレットにしてみました。

日本のAAが初めて試みたもので、色々な点で検討しなければならぬと、考えております。そこで、是非、皆様にご意見、ご提案をいただければと思っております。電話、FAX等で、ご連絡いただければお届いたします。電話、どうぞよろしく、お待ち申し上げます。